

山王

寅歲新春号





新春を迎えて

日枝神社氏子崇敬会会長 小池 百合子

令和四年の新年を迎え、新春を寿ぎ謹んでお慶びを申し上げますとともに、日枝大神様の更なるご加護のもと、今年が良き年でありますようご祈念申し上げます。

昨年は五輪史上初めて一年延期をした上で、東京二〇二〇大会が開催されました。世界中から多くのアスリートが東京に集い、コロナによって分断された世界をスポーツの力でひとつにしなが、世界中で感動を分かち合えた大会となりました。

延期をしてもなお、コロナ禍は変わらず、様々な課題と大きな不安を抱えながらの開催ではありませんでしたが、ホストシティとして安心・安全な大会を実現するために、国、組織委員会と一丸となって水際対策や行動管理など、感染防止対策を徹底いたしました。

こうした取り組みの結果、大会関係者の陽性率は当初の想定よりも下回り、専門家からも「対策が功を奏し大会は安全に行われた」との評価をいただいております。

都民の皆様のご協力が最大の力となったことは言うまでもありません。テレワークやステイホームの呼びかけへのご協力で交通量や人流の抑制も実現できました。わが国で、もともと定着していたマスク着用も、コロナ抑え込みに大きな役目を果たしています。改めて皆様のご協力を感謝を申し上げます。海外ではマスク着用やワクチン接種そのものが政策論争となるなど、日本の状況とは大きく違います。

なによりも、宮西修治宮司には「疫病退散、都民安泰」のため、心を込めて祈願していただき、日枝大神様が都民をお守りくださいました。

東京二〇二〇大会の成功を一過性のものにしたいために、その成果を東京のレガシーとして発展し維持させていかなければなりません。パラリンピック大会でも、多くのアスリートの方々の活躍や新競技が話題を集めたことで、東京、ひいては日本において誰もが不自由なく生活できる環境づくりの意識が醸成されました。東京都では、日枝神社がすでに成し遂げておられるように、大会前には競技会場周辺などを中心に進めていた、段差解消や主要駅でのエレベーター設置などの整備を都内各所に拡大し、整備を加速させてまいります。

さて、本年は壬寅です。相場格言では寅千里走る、など勢い盛んなように語られることが多い寅年ですが、世相を歴史的に振り返ると政治的波乱が多いと言われます。新型コロナウイルス感染症は新たに変異株の出現など、なかなか落ち着きませんが、感染抑制と消費行動の両立が図られています。二年以上に及ぶ見えな

い敵との闘いも、人類の叡智と知見の積み重ねにより終息に向かうように強く願っています。
最後に、この新しい年の国家の安寧と弥栄、日枝神社のご神徳の昂揚とご社頭のご隆昌、氏子崇敬会の更なるご発展、また皆様のご健勝とご多幸を心からご祈念いたしまして、私の新年にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。

新春祭典・行事のご案内

一月

一日(土)

午前零時 若水祭

神能「ひとり翁」奉奏

山階彌右衛門師 奉仕

午前七時 歳旦祭

三日(月)

午前八時 元始祭

六日(木)

午後二時 奉納書初展感謝奉告祭

*山王奉書会・記念講演は行いません。

十三日(木)

午前十一時 印章護持祭

十五日(土)

午前九時 月次祭

午前十時十五分 神符焼納祭

二月

三日(木)

午前十一時三十分

節分祭追儺神事

*神事のみ行い、豆まきはいりません。

神宮初詣旅行会・新年互礼会は感染症対策のため中止致します。

特別寄稿



参議院議員

山谷えり子

皇紀二千六百八十二年、令和四年が幕開けとなりました。

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

新年を迎えるにあたり、天下泰平、国土安穩、聖寿無窮、万民豊樂を祈念いたします。

壬寅の本年は、厳しい冬を越えて、芽吹きはじめ新しい成長の礎となる一年と言われています。

長引くコロナ禍で経済活動が抑制され、世界的にも景気停滞に見舞われた二年間でしたが、それぞれが知恵を出し合って共に乗り越えてきた時間でもありました。

ワクチンの接種率も約八割となる中、国産ワクチンの開発や経口抗ウイルス薬の開発も急速に進められており、コロナと共存していく社会への備えも整いつつあります。

改めて、当たり前であった日常に感謝をし、人とのつながりの大切さに気づけたことは、大きな収

穫でもありました。

心身ともに内向き気味でもあったこれまでを、徐々に開放していける一年となるよう願っております。

年神様を迎えるための大掃除。十二月十三日の「正月事始め」でおこなわれる「煤払い」は、現代の大掃除のもととなりますが、私は小さいころから、一年の汚れを払って隅々までお掃除をすれば、お迎えする年神様が御利益をたくさん持つてわが家にきてくださるのよと教えられてきました。

最近では、「忙しい年末をゆつたり過ごすために気候のいい秋から大掃除を」というトレンドもあるようですが、季節に根付いた年中行事や風習といったものを家族の中で傳承していつてほしいと願っています。

小泉八雲は、『生神様』の中で次のように述べています。

「神社の社頭に立てば、恭しい表

敬の態度を誰しもとらずにいられない。その信仰が身辺に空気のごとく揺れ動く時、大気が私たちの肉体に圧力を加えるのと同様、その信仰が私たちの精神に圧力を加えていることを私たちは意識せずにはいられない。」

このように瑞々しく日本の機微に聡い国民性を次の世代にも伝えていくことが何よりも大切であると考えます。

今年は、隔年の六月に開催される神幸祭の年でもあります。

御鳳輦二基・宮神輿二基・山車六基と、王朝装束に威儀を正した総勢五百人からなる現代の王朝絵巻は圧巻です。コロナの影響により四年ぶりとなる本年は、なおのこと心待ちにされていらつしやる方々も多いことと存じます。

私が務める自民党の文化立国調査会では、地域の伝統行事等の傳承事業の予算拡充を決議し、昨年末に新規で六十五億円の補正予算をあてることとなりました。

伝統文化の継承に弛まぬ努力を重ねてくださっている神社や保存会の活動を支えるため、屋台や山車、衣装の修理や次世代に伝え遺すための映像制作など、多くの地域で活用いただけるようすすめてまいります。

日本の文化は祈り、寿ぎの心と自

然との共生など美しさと歓びに満ちています。

世界が対立、混乱にある中、日本の文化発信が世界を調和へと導く力となるよう、力強い歩みを進める一年としたいと願います。

また、拉致問題対策本部長として、北朝鮮をめぐる状況が大きく動いている中、何としても拉致被害者の全員一括帰国にむけて結果を出していくよう力の限り働いてまいります。一日千秋の思いで、被害者の帰国を待ち望むご家族との約束を果たすため、政府とも連携して邁進してまいります。

結びにあたり、国家の安寧と皆様の御健康と御多幸を心より祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



山王祭

—日本三大祭—

川越祭礼研究家

水戸 一 斎

(監修・山瀬一男)

山王御祭礼の山車のゆくえ

前号に続き、山王御祭礼二十一番、通油町・田所町・新大坂町の山車だしの話します。

文久二年（一八六二）にこの三町から曳き出された蘭陵王らんりやうおうの山車（写真1）は、私が住む埼玉県川越市にある羅陵王らりやうおうの山車と製作者が同じ「だし鉄」と推測されることもあって、個人的に親しみを感じております。さらに、この三町の山車がどこへ行つたのかを調べてみると、わからないことがたくさん見つかり、興味の尽きることはありません。

この三町に限らず、山王御祭礼で曳かれた山車のゆ



写真1 蘭陵王の山車（写真提供：小柴克則）

くえには多くの謎が存在します。そこで謎の一端をこの場で紹介し、一緒に謎解きを楽しみたいと思います。

蘭陵王の山車は、明治の半ばには地元日本橋でも所在不明となっていました。明治二十八年に刊行された『絵本江戸風俗往来』には次のように記されています。

「以前は龍神の山車なりしが、安政

の頃、蘭陵王舞楽の舞人形に改まり、美に美をつくる山車となりしが、しつらいせしより（＝登場してから）一度曳き出せしままにて、後はいかにせしや」

蘭陵王の山車はすでにゆくえ知らずとなっています。

時代は下り、昭和十年の『旧聞日本橋』では、蘭陵王の山車について次のような説明がなされています。

「有名な日本橋の龍神とは違うが、維新の時、国外へ流れ出てしまった。この有名な蘭陵王の面は、アメリカにあるとかいった」

蘭陵王の山車は、海の方こうへ行ってしまったと思われていたのです。

現われた山車

その蘭陵王の山車が国内にあったことは、前号でお話したとおりです。

平成十五年の「江戸開府四百年記念事業」でこの山車が丸ビルに展示されたことをきっかけに、埼玉県に現存していることが広く知られるようになりました。明治十六年に加須町下町（現加須市本町）が三町から買い受け、今日までほぼ製作当時のままの姿を保っています。しかも収納箱まで残っていますので、まことに貴重な文化遺産と

いえます。

もちろん、人形の面もありました。内箱には「相州鎌倉鶴ヶ岡八幡宮神宝、古面の図をもってこれを写す。蘭陵王面。高村東雲作」との墨書きが見られました（漢文を書き下しています）。

高村東雲とは、有名な高村光雲の師匠に当たる仏師です。仏像の製作が主な仕事ですので、なじみの薄い舞楽面を作るに当たり、鶴岡八幡宮の古面の図を参照したことは十分考えられます。この面は本物と言ってよいでしょう。

ということは当然、アメリカに行つたのは蘭陵王の山車ではないということになります。別の山車が海外へ渡つた可能性が出てきたのです。その場合、真つ先に候補にあがるのは、蘭陵王の山車の前に三町で使われていた「龍神の山車」です。

前述のとおり、龍神の山車もすばらしい出来栄であつたと人々に記憶されています。アメリカ人の目から見ても魅力的に思えたでしょうし、自分のものになりたいと考えた人がいても少しもおかしくはありません。海を渡つたのは龍神の山車であらうとの見方が強くなりました。



写真3 日本武尊の人形(写真提供: 山瀬一男) 写真2 竹生島龍神の人形

ところが、そうではなさそうだということがわかったのです。日本に存在しないはずの龍神の山車が、千葉県佐倉市で見つかったからです。

佐倉の山車人形

この山車は、正確には「竹生島龍神の山車」といいます。山車本体はいくつかの部材を残すのみとなっていますが、人形の方は面を含めほぼ完全な形で残っています。(写真2)

この人形は明治時代から佐倉に

あったのですが、山王御祭礼の山車かもしれないということで、改めて注目されるようになりました。

そこまでに至るいきさつにも多分に謎解きの要素が含まれていますので、是非ともここで紹介したいと思っています。

江戸開府四百年記念事業により、地方の祭礼に今なお江戸の文化が息づいていることがわかり、あるいは江戸の山車そのものが発見されたことから、関東を中心に大盛り上がりを見せるようになりました。

その勢いは翌年に持ち越され、丸ビルでの山車の展示が「江戸フェスティバル」に引き継がれることになりました。関東各地から山車や山車人形が集められ、その中に千葉県佐倉市の「日本武尊」の人形(写真3)がありました。

この人形は昭和十一年まで佐倉の秋祭りで見られていましたが、その後は町会の会所に飾られ、祭りの晴れ舞台からは退いていました。

それでも、高さ二メートル五十センチという堂々たる体格と、そのつくりの良さから多くの人の目を引くであらうと予想されたため、丸ビルに飾られることになりました。

「江戸フェスティバル」での展示が決まると、人形を保有する上町の人たちは、自分たちの山車人形がどの町のものであったか、強い関心を持つようになりました。それまでは「日本橋から買った」という言い伝えしかなかったからです。

「古川長延」という人形師によると、人形の頭の中に作者名を書いた札を入れ、後々まで誰がつくったかわかるようにしたそうだという話を聞いた町の人が、何とファイバースコープを使って人形の頭の中を調べたのです。すると江戸で最も著名な人形師の一人「仲秀英」の名前が見つかりました。日本武尊の人形が格式の高い祭礼で使われた可能性が一気に出てきたのです。

このことを知った江戸祭礼研究家の山瀬一男さんは、現存するあらゆる絵画資料、江戸時代の錦絵や祭礼番付、さらに明治時代の写真などを丹念に調べました。立版古という子どものおもちゃまで参考にしたといいます。その結果、山王御祭礼二十七番の山車人形ではないかというところまで絞り込むことができました。

とはいえ、現存する日本武尊が手に弓を持っているのに対し、祭礼番付の人形が手にしているのは軍配で

したので、その理由を説明できなければ山王御祭礼で使われた人形とは言えませんでした。

山瀬さんはもう一度、日本武尊の人形を詳しく調べてみました。すると、左手のつくりがそれ以外の部分と違うことに気づきました。人形が軍配を弓に持ち変えたものと推測され、山王御祭礼二十七番の山車人形である可能性が一段と高まりました。

山瀬さんは、たまたまそのとき神田明神資料館で開催されていた『天下祭』展を訪れました。そこには明治元年の『天盃頂戴』という錦絵が飾られていて、その中に弓を持った日本武尊の人形が描かれていました。上町の人形が山王御祭礼二十七番のものであるという可能性が、これによってかなりの確度を持つようになったのです。

竹生島龍神の人形

上町にとってうれしい発見でしたが、周りの町にとってもよい刺激となりました。「ひょっとして、うちの山車人形も由緒あるものかもしれない」と思うようになったからです。

町の人たちは自分たちの山車や人形を隈なく調べました。すると、横町、

肴町、二番町の山車の町名額に「明治十二年九月納入 皇国 御装束司 関岡長光」と書かれているのが見つかりました。

関岡長光という人物は、日本橋馬喰町の能装束師です。明治の初めには山車を含む祭礼用品全般の仲介も手がけていました。川越の南町（現川越市幸町）も、明治三年に「東京関岡殿」から祭礼道具を購入しています。

ということは、この三町の人形も東京から買われた可能性が高いということになります。そこで上町と同じように江戸の祭礼記録を探ってみましたところ、三町とも山王御祭礼で曳かれたらしいことが明らかとなりました（これがどれほどすごいことか）。今では肴町の人形は二十一番「竹生島龍神」と言われています。

この人形が本物なら、文化財的な価値はひとときわ高いと思われます。それというのも、文化十年（一八三三）の『江戸山王社天下祭絵巻』（写真4）に描かれている人形の出立、すなわち龍戴（龍の形をしたかぶり物）、宝珠、打杖をすべて備えているからです。

さらに、通称「黒髭」と呼ばれる

能面も存在しています。裏には金泥で「出目洞水打」と書かれています。出目洞水とは能面の世界で頂点に君臨する出目家の五代目で、江戸中期の享保時代に活躍した人です。

山王御祭礼で曳かれていただけでも希少性が高いというのに、これだけの古面が残っていたとあつては、まさに奇跡というほかありません。

万延元年の山車

ここまで通油町・田所町・新大坂町の山車について見てきましたが、結局のところこの三町の山車はアメリカに渡らなかつたのでしょうか。

そうとは言い切れない気がしています。むしろアメリカへ渡つたと考えた方が自然なように思えるのです。ここから先は、「こうあつてほしい」という願望を込めて、あれこれ推理してみたいと思います。皆さんも一緒に考えてみてください。

まずはペリー来航以降の文献を当たってみましょう。アメリカ人が山車や人形に触れる機会があつたのかどうか、残された記録を頼りに確かめてみたいからです。

すると、たつた一度だけ、その機会があつたことがわかりました。万延元年

（二八六〇）

の山王御祭礼にアメリカの公使館員が見物に訪れているのです。

安政五年（一八五八）

の日米修好通商条約を機に、江戸

市中に各国の公使館が置かれるようになると、幕府は各国との友好関係を深めるため、御祭礼を文化交流の場としました。アメリカからは八名が参加し、華麗な山車行列を堪能しました。

この年の御祭礼は例年以上に盛大なものでした。安政二年（一八五五）の大地震以来、御祭礼は火が消えたようにさびしくなっていたので、幕府は景気の浮揚を見込んで御祭礼をにぎやかに行うよう各町にお触れを出したのです。

幕府の奨励策に力を得て、通油町・田所町・新大坂町の三町はまったく新しい山車を完成させました。同年に出版された大判の錦絵（写真5）



写真4 江戸山王社天下祭絵巻（たばこと塩の博物館所蔵）

によると、二十一番の山車は見たことのない形をしています。人形こそおなじみの龍神ですが、人形を囲っている勾欄（欄干のこと）が六角形をしているのです。

これ以前にも他町から六角形の山車が出されたことはありますが、なぜかふたたび四角に戻してしまつたため、万延元年には二十一番の山車だけが六角形となっていました。

これらのことを総合的に判断すると、万延元年には次のようなできごとがあつたのではと想像されます。

久しぶりの大祭に意気込んで参加した町々。御祭礼をはじめて見物した各国の公使館員はその絢爛豪華な山車や屋台に心を奪われます。

中でも独創的な六角形の山車は一人のアメリカ人をとりこにし、何としても自分のものになりたいという気持ちにさせます。彼は「いくらでもいいからこの山車を譲ってもらえないか」と懇願します。

三町はその金額の大きさに驚きますが、それ以上に、自分たちの山車が海外の人にも認められたことを喜び、一度しか使っていないこの山車を進んでアメリカ人に譲ります。そして、「次はもっといい山車をつくらう」と話し合い、金銭に糸目をつけず最高級の山車をつくったのです。それが「蘭陵王の山車」というわけです。



以上のことはまったくの妄想ですが、あながち間違いとは言えないと思います。もしもアメリカのどこ



写真 5 山王祭 (国立音楽大学附属図書館竹内道敬文庫所蔵)

かで山車の部材が発見されたら、この物語が妄想ではなくすべてが真実であったことの証明となるでしょう。夢物語と言われるかもしれませんが、でも、一度ならず二度も、この三町の山車が奇跡的に見つかっているのです。三度目がないとは限りません。ゆくえ知らずの山車が発見されれば、祭礼の研究は飛躍的に深まります。ひとつでも多く本物の山車が現われれば、それだけ祭礼文化の発展につながるのです。

六角形の山車が見つかる可能性は限りなく低いと言えます。外国人にとつて山車を組み立てることは難しいですし、しまつておくにも大きくすぎて邪魔だからからです。仕方なく処分してしまったかもしれません。さらに、所有者が代替わりすれば、利用価値のない山車など躊躇なく廃棄されたことでしょう。アメリカへ渡った証拠は残っていないと考えるのが自然です。

それでも、三度目の奇跡が起こることを信じていると思います。いつの日か、異国の地で見知らぬ収納箱が開けられ、タイムカプセルのように六角形の山車が目の前に現れることを、心の底から期待しています。



護みて新年の
御祝詞を申し上げます

頌 春
令和四壬寅歳

日枝神社

代表役員	宮西修治
責任役員	中澤彦七
同	福原義春
同	大澤忠政
同	澤田晴子
同	杉山博孝
同	泉由紀子
責任役員 権宮司	大塚正行



謹賀新年

順不同敬称略

	八重洲ライフ(株)・八重洲ゴルフライフ 代表取締役 長 松本信義 3口			(株)ぬ利彦 代表取締役 長 中澤彦七 3口			(株)プレナス 代表取締役 長 塩井辰男 5口				
	(株)永田町 天竹	山王むらさき会 会 長 藤田誠	(株)アルファビデオ 代表取締役 青山朋孝	日枝神社四葉会	(株)ザ・キャピトルホテル東急 総支配人 末吉孝弘	山王熱供給(株) 代表取締役 長 津曲荒太	山の茶屋 遠藤恒夫	永田町・霞ヶ関 平河町	マネックス証券(株) 会 長 松本大 3口		
(株)千修 代表取締役 長 下谷友康	(株)朝日写真ニユース社 代表取締役 長 阪田裕一	表千家 不審菴 家 元 千宗左	三番町 田中康博	(株)伊勢半本店 代表取締役 長 澤田晴子	番町・九段・四谷	弁護士法人一番町総合法律事務所 代表社員 神崎浩昭	(有)ナリタ美容室 代表取締役 成田弘子	(株)ジョー・コーポレーション 代表取締役 堀切健司	(株)ジャパングレーライン 代表取締役 眞下慶一郎	(株)ニュー・オータニ 代表取締役 長 大谷和彦	麹町・紀尾井町
(株)栄太樓總本舗 代表取締役 長 細田眞	日本料理ゆかり 野永喜一郎	八重洲・日本橋	(株)キョウエイアドインテナーナショナル 代表取締役 長 廣瀬勝巳	TANAKAホールディングス(株) 代表取締役社長 執行役員 田中浩一朗	(株)東京會館 取締役社長 渡辺訓章	泉吉(株) 代表取締役 岸本昌子	(株)帝国ホテル 取締役社長 定保英弥	東宝(株) 名誉会長 松岡功	東京技工(株) 代表取締役 長 林光男 2口	大手町・丸の内 内幸町・有楽町	

	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	大総代 遠藤恒夫
	日枝神社	令和四壬寅歳	頌 春								
亀岡恒方	細田眞	羽田宇男	安倍洋子	木村暖子	北見芳夫	三枝亮	富田正一	今野克彦	野永喜一郎	松岡功	岡村好貴
清水昭治	田中康博	関口弥寿雄	遠藤恒夫	松岡功	岡村好貴	清水昭治	田中康博	関口弥寿雄	遠藤恒夫	松岡功	岡村好貴

謹賀新年

順不同敬称略

社執行役 長 玉田弘文	代表社員 (資)北見商店 北見まさる	北見不動産(有) 代表取締役 長 北見芳夫 代表取締役 長 北見千穂	八丁堀 茅場町・兜町	小宮山印刷(株) 代表取締役 長 小宮山貴史	金子架設工業(株) 代表取締役 長 青木茂	中西瀝青ホールディングス(株) 代表取締役 森口友美子	木村實業(株) 代表取締役 木村平右衛門	川崎定徳(株) 代表取締役 川崎眞次郎	日本橋吉野鮎本店 吉野正敏	東京建物(株) 代表取締役 社長執行役員 野村均	(株)高島屋 代表取締役 専務 亀岡恒方
やす幸 石原 壽	(株)小林傳次郎中央地所部	(株)ギンザのサエグサ 代表取締役 長 三枝亮	(株)木村商店 代表取締役 木村暖子	(株)小松ストア 代表取締役 小坂敬	新銀 橋座	中島金属箔粉工業(株) 代表取締役 長 中島武	清水建設(株) 取締役社長 井上和幸	(株)トミタ 会 長 富田正一	(株)大澤ローヤル 代表取締役 大澤忠政	京 橋	新日本不動産(株) 代表取締役 中島信子
代表取締役 かねや足袋(株) 中澤貴之	代表取締役 コトー商事(株) 野玉善一	(財)答礼会 理事長 徳永将	(株)泉屋東京店 代表取締役 泉由紀子	崇敬者(氏子外)	銀座吉田(株) 代表取締役 吉田民雄	(株)ホツタ 取締役社長 堀田峰明	(株)銀座木村家 代表取締役 木村美貴子	銀座越後屋 代表取締役 永井甚右衛門	(株)新橋玉木屋 代表取締役 田巻恭子	正金商事(株) 代表取締役 蛸原宗久	(株)銀座ナイン 代表取締役 会長 柴田孝則
佐竹昭二	(株)大槻装束店 代表取締役 大槻奈津子	(株)高田装束店 東京店 代表取締役 加藤充則	(株)井筒装束店 代表取締役 佐織鉄郎	(株)糟谷 相談役 糟谷孝男	(株)アーバンネットコーポレーション 代表取締役 長 服部信治	鈴木徹章工芸(株) 取締役会長 鈴木健之	(株)ミロク情報サービス 代表取締役 長 是枝周樹	(株)フエム 代表取締役 藤田誠	会 長 京橋大根河岸会 鈴木敏行	社 代表取締役 長 東京中央青果(株) 鈴木敏行	(株)錦屋マリエマリエ 取締役社長 勝田久美子

頌
春
令和四壬寅歳

日枝神社

宮 司宮西修治

権 司大塚正行

禰 宜高平原聖司

禰 宜鎌田周作

権 宜土田幸大

同 片山 徹

同 内田博之

同 杉山正吉史

同 手塚和記

同 松橋裕晃

同 高野大樹

同 佐藤祐貴

同 中島大二郎

同 千葉統彦

同 榎本圭佑



謹賀新年

順不同敬称略

(株)桜井グラフィックシステムズ 代表取締役 長 桜井 美国		(株)兵左衛門 代表取締役 浦谷 剛人		(株)なだ方 代表取締役 長 巻 木 通 浩		裏千家 今日庵 千 玄室 宗室		(株)フォーシーズ 代表取締役 会長兼CEO 浅野 秀 則		安全自動車(株) 代表取締役 長 中 谷 宗 平		(株)丸井スズキ 代表取締役 鈴 木 貴 博		廣田特許事務所 代 表 廣 田 雅 紀		有楽商事(株) 代表取締役 平 沼 顕 司		佐藤産業(株) 会 長 佐藤太美雄		(株)信英堂 代表取締役 桜 井 俊 一		朝日総業(株) 代表取締役 池本なぎさ							
(株)CMC 代表取締役 高 橋 悦 郎		(株)木村屋總本店 代表取締役 長 木 村 光 伯		山王むらさき会										(株)アルファビデオ サ ロ ン ・ ド ・ ペ ル		(株)三 日 本 橋 高 島 屋		(有)ト ー シ ン		(株)日本旅行公務法人営業部 花 省		(株)フ エ ム		(有)フローリスト響花 (株)マイプリント		(株)マルビシ (株)オフシヨット			
酒は、これを神々に献り、その撒下をいただく事によって、 うつうつとした気持ちさが晴れやかになる百薬の長です。 当日枝神社の御祭神大山咋神は、古来、酒を司らせ給う 東都の酒神と厚く信仰せられるところであります。																													
令和三年例祭献酒醸造元芳名（順不同・敬称略）																													
沢の鶴(株)東京支店 濱 田 酒 造 (株) (株)家久長本店 盛 田 (株) 小西酒造(株)東京支店 天 鷹 酒 造 (株) (株)村松仙翁むらまつ酒商類 宝 酒 造 (株) (株)矢尾本店酒つくりの森 薩摩酒造(株) 雲海酒造(株)東京支店 近 藤 酒 造 (株) 太田酒造(株) 霧 島 酒 造 (株) 大信州酒造(株) (株)ちくま食品 日本盛(株)東京支店 山 梨 銘 醸 (株) 鍋 店 (株) 辰馬本家酒造(株) (株)本田商店 岩瀬酒造(株) ヒガシマル醤油(株) 都 錦 酒 造 (株) 武蔵鶴酒造(株) キンシ正宗(株) (株)今田酒造本店 柴崎酒造(株) 菊 正 宗 酒 造 (株) (株)吉田金右衛門商店 谷 櫻 酒 造 (有) 白鶴酒造(株)東京支店 (株)福 光 屋 (株)土井酒造場 月 桂 冠 (株) (株)榊田酒造店 (株)酔心山根本店 吉乃川(株)東京支店 (株)丸山酒造場 土佐鶴酒造(株) 黄 桜 (株) (株)北雪酒造 千代の園酒造(株) (株)山本本家 (株)大和川酒造店 奥の松酒造(株) 江井ヶ嶋酒造(株) (株)佐 浦 新政酒造(株) 豊島屋酒造(株) 和 田 酒 造 (有) 醉仙酒造(株) 田村酒造場 (株)六 歌 仙 秋田銘醸(株) 石川酒造(株) 土田酒造(株) 大関(株)首都圏支社 (有)金井酒造店 (株)小山本家酒造 ヤマサ醤油(株) 福徳長酒類(株) 賀茂鶴酒造(株) 麒麟ビール(株)東京中央支店 木戸泉酒造(株)																													

頌 春

令和四年寅歳

日枝神社氏子崇敬会

名誉会長 石原慎太郎

会 長 小池百合子

副会長 中澤彦七

同 福原義春

同 大澤忠政

同 澤田晴子

同 杉山博孝

同 泉由紀子

同 松岡 功

顧問 樋口高顕

同 山本恭人

同 武井雅昭

同 内田 茂

同 立石晴康

同 河村潤子

監 事 遠藤恒夫

同 南村員哉



令和三年 回顧

一月	元旦 若水祭 歳旦祭 國學院大學佐柳正三理事長参拝
三日	元始祭
六日	第五十七回奉納書初展感謝奉告祭
十三日	印章護持祭
十五日	神符焼納祭
三十日	小池百合子氏子崇敬会長参拝
二月	
二日	節分祭
十一日	紀元祭
十七日	祈年祭
二十三日	天長祭
三月	
二十日	春季皇霊祭遥拝
三十一日	神社本庁鷹司統理 田中総長 吉川副総長参拝



嘉祥祭



撰社祭



神符焼納祭

四月	二十八日 末社山王稻荷神社例祭 二十九日 昭和祭 御神田田植祭 於千葉県香取市
六月	七日 山王祭 十七日 八坂神社例祭 七日 表千家家元献茶式 十一日 撰社祭 十二日 境内茶園並狭山新茶奉納奉告祭 十三日 献灯祭 十五日 例祭 十六日 煎茶礼道日泉流献茶式 山王嘉祥祭 十七日 裏千家家元献茶式 三十日 大祓並鎮火祭

九月	五日	御神田拔穂祭 於 千葉県香取市
	二十三日	秋季皇霊祭遥拝 第四十九回山王祖霊祭
十月	十七日	神嘗祭遥拝
十一月	三日	明治祭
	二十三日	新嘗祭
十二月	一日	朔旦祭 ^併 大麻頒布始奉告
	三十一日	大祓並鎮火祭 除夜祭



新嘗祭



献灯祭

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、各祭典は神職及び関係各位で執り行い、左記の祭典・行事を中止した。

新年互例会
節分祭豆撒き
稚児行列
緑蔭朝詣りとラジオ体操の集い
箸感謝祭
星岡会（旧職員会）
中秋管絃祭
敬老祭
武蔵野御陵清掃奉仕
責任役員大総代関係団体代表等合同納会
又、第二回・第三回・第四回責任役員会
大総代会並びに評議員会は書面審議とした。



大祓

山王祭の附祭「源頼政の鶴退治」

武蔵大学教授 福原敏男

江戸の天下祭（山王祭と神田祭）では十八世紀中期以降、他の江戸諸祭礼ではその後、氏子町が山車と並んで、附祭を盛んに出すようになり人気をさらった。附祭には移動舞台などの他に、現在のテーマパークのフロートのような引物があり、物語世界などを人形や造り物で制作し、毎回趣向を変えて披露された。

文政七年（一八二四）の山王祭に際しては、「源頼政の鶴退治」をテーマとする図のような引物が、江戸城内や氏子町を巡行したのである。

そもそも鶴（鶴）とは、全長約三十cmほどの鳥「虎つぐみ」の異名であり、すでに『古事記』にみえ、『十巻本和名抄』（九三四年頃成立）では「怪鳥」と呼ばれた。山地の暗い森林に多く棲息し、夜間ヒョーヒョーと気味悪く鳴くため、昔から地獄鳥とも呼ばれて嫌われてきた。一方、十三世紀成立の『平家物語』

をはじめとして、平安時代の京都御所を襲った鶴の譚が語られる。この鶴は実在の虎つぐみが妖怪化され、体の各部分がそれぞれ別の生き物に似ている怪鳥とされた。

この譚を踏まえ、鶴は江戸時代以来、得体の知れない人物や薄気味の悪い態度の譬えとなり、正体不明の代名詞とされてきた。

すなわち、『平家物語』では以下のように語られてきた。平安時代末、内裏に現れた鶴は時の天皇を悩ませ、病に陥れた。そこで近衛府の武人として朝廷を警固する源頼政（一一〇五―一一八〇）が二度にわたり鶴を退治して、天皇の病を治したとされる。

頼政は軍記物語の世界において、弓の名手や歌人として再三登場し、『平家物語』巻四「鶴」では以下のように語られた（以下は筆者による現代語訳）。

仁平年間（一一五一―五四）の頃、丑の刻になると東三条殿の森の方角より黒雲の一群が起こつて御殿の上を覆った。すると近衛天皇は必ず怯え苦しんだ。公卿たちは武士に警固させようと頼政を選び、頼政は矢二筋と重（滋）藤の弓を携え、家臣の猪早太と南殿に向かった。案の定、丑の刻になると黒雲が立ち起こり、頼政の見上げる雲の中に怪物の姿が現れたので矢を放った。矢は命中し、頼政は「得たりや、おう」と「矢叫び」をあげた。猪早太が落ちてきた怪物を取り押さえ、続けざまに九回、刀で刺した。松明で照らすと、頭は猿、体は狸、尾は蛇、手足は虎のようで、鳴く声は鶴（虎つぐみ）に似た恐ろしい妖怪であった。

この功により、近衛天皇は獅子王という剣を頼政に授けることにした。藤原頼長が受け取って頼政に与えようとすると、郭公が二声、三声鳴いて雲間を通った。頼長が「郭公名をも雲井にあぐるかな」と詠むと、頼政は「弓はり月のいるにまかせて（月の入るままに射たにすぎないとの謙遜）」と句を継ぎ、歌道にも優れていると、人びとに感心された。

また、応保年間（一一六一―六三）の頃、化鳥がしばしば内裏で鳴いては二条天皇を悩ませ、頼政が再度呼ばれた。鶴は宵のうちに一声鳴いたのみで、真暗闇のなか、頼政はまず大きな鏑矢をつがえ、鶴の声がした方へ射上げたところ、鏑矢の音に驚いた鶴は「ひひ」と鳴いた。次に小さな鏑矢を放つと、矢は鶴に当たって落ちてきた。

頼政は二条天皇より御衣を授かり、藤原公能が受け取って頼政の肩に掛け「五月闇 名をあらわせる今宵かな」と詠んだ。頼政は「たそがれ時の 過ぎぬと思ふに」と続け、御衣を肩にかけて退出したという。撰津源氏の流れをくむ頼政は晩年、平清盛の後ろ盾により念願の「三位」を得、源三位と称された。保元の乱で後白河天皇方について勝利し、平治の乱では源義朝側から一転平氏側につき、以後、六波羅政権下で生き延びた唯一の源氏の武将であった。後世、鶴退治伝説は好んで描かれる武者絵画題の一つとなり、歌川国芳などの浮世絵にも採り入れられるようになった。



図 山王祭附祭の「源頼政の鶴退治」引物（「文政七年山王祭日本橋本石町・十軒店附祭絵巻」より。上部は絵巻本紙に紙を貼り継いで描く）

話を山王祭附祭に戻す。文政七年（一八二四）、日本橋本石町四カ町（一〇四丁目）と十軒店が共同して出した鶴退治の引物に注目する。これらの町は、現中央区日本橋の本石町・室町・本町に相当する。氏子町である本石町四カ町は山王祭第十一番の山車組を構成し、牡丹の造り物や一来法師人形の山車を定番としていた。

鶴退治が描かれた図は「文政七年山王祭日本橋本石町・十軒店附祭絵巻」（紙本着色一巻、福原が命名）という。絵巻の引物の大きさは誇大表現と思われるが、同年の祭礼番付によると、六十人が交替して四輪車を綱で引いたのである（右側が進行方向）。

左の頼政（人形）が黒雲中の鶴を射落とし、猿頭に矢の刺さった鶴は御所の庭に落ち、右の猪早太が鶴（頭は猿、胴体は狸、手足は虎、尾は蛇）を押さえつけ、短刀で喉にとどめを刺す。

鶴の潜んだ渦巻形の黒雲は造り物にされ引物舞台を囲み、幕絵や引き手の法被にも同形が染め抜かれ、引物全体の意匠（紋様）となっている。

頼政の背景は、紫宸殿正面階段右

に植えられた「右近の橘」であり、「左近の桜」と相対する。

絵巻が伝来する三重県多気町の西村家は江戸時代、伊勢国多気郡の有力商家「大和屋」として知られ、江戸の大伝馬町に両替商、本石町四丁目に紙問屋を営んだ。絵巻は、附祭を出した同家の江戸店が記念として、浮世絵師（国芳工房と推定される）に発注して描かせたものと思われる。

延享元年（一七四四）の「江戸市中富有町人番付」では、大和屋主人の名が他の松坂商人らと共に筆頭にあったものの、明治二年（一八五四）、本石町店は他家に渡ったとされる。

江戸店から多気郡の西村家に持ち運ばれた絵巻の存在は、同家でも次第に忘れ去られていった。

二〇一六年秋、「多気町多気郷土資料館」特別展準備に際し、絵巻が江戸山王祭を描いたものと確認され、同年で初公開された。

調査を依頼された筆者は会期中に同館を訪れて調査し、二〇一八年、『江戸山王祭絵巻―練物・傘鉾・山車・屋台―』（岩田書院）に全編を収録することができた。

降りエスカレーター竣工



令和3年11月25日(木)に降りエスカレーターの竣工奉告祭並びに稼働式・渡り初めを執り行いました。

日枝神社家庭暦上梓

「令和四壬寅年日枝神社家庭暦」
境内授与所にて二百円の初穂料で頒布しております。



防犯功労者等表彰式



令和3年7月2日(金)に麹町警察署に於いて、防犯功労者等表彰式が行われ、当社より高原楠宜が出席し表彰を受けました。

御神米づくり 抜穂祭



令和3年9月5日(日)に千葉県香取市の御神田にて抜穂祭を執り行いました。
今年も新型コロナウイルス感染症対策として神職のみでの御奉仕となりました。
収穫した新穀は11月23日(火)に斎行された新嘗祭にてお供えされました。

山王台通信

神社本庁辞令

岡山県 素戔鳴神社権禰宜に転任
(令和三年七月一日付)
権禰宜 室山倫広

新入職員紹介

嘱託
後藤敏彦
(令和三年七月一日付)

訃報

責任役員 細田安兵衛殿

令和三年十一月三日
細田安兵衛殿は昭和五十九年十二月から当社責任役員・氏子崇敬会副会長を務められ、神社の維持運営に御尽力頂きましたが、令和三年十一月三日に御逝去されました。(行年九十四)

大総代 池田新二殿

令和三年十一月三十日
池田新二殿は平成二十八年八月から当社大総代・氏子崇敬会常任理事を務められ、神社の維持運営に御尽力頂きましたが、令和三年十一月三十日に御逝去されました。(行年八十一)

茲に御功績を称え、謹みてご冥福をお祈り申し上げます。

〈通巻百三十九号〉

発行 令和四年一月一日
編集 日枝神社社務所

東京都千代田区永田町二丁目十番五号
(郵便番号 一〇〇一〇一四)
TEL 〇三―三五八一―二四七(代表)
FAX 〇三―三五八一―二〇七七
<http://www.hiejinja.net/>



©わたせせいぞう

令和4年厄年表（数え年）

男の厄年

前 厄	本 厄	後 厄
平成11年生 24歳 う(うさぎ)	平成10年生 25歳 とら	平成9年生 26歳 うし
昭和57年生 41歳 いぬ	昭和56年生 42歳 とり	昭和55年生 43歳 さる
昭和38年生 60歳 う(うさぎ)	昭和37年生 61歳 とら	昭和36年生 62歳 うし

女の厄年

前 厄	本 厄	後 厄
平成17年生 18歳 とり	平成16年生 19歳 さる	平成15年生 20歳 ひつじ
平成3年生 32歳 ひつじ	平成2年生 33歳 うま	平成元年生 昭和64年生 34歳 み(へび)
昭和62年生 36歳 う(うさぎ)	昭和61年生 37歳 とら	昭和60年生 38歳 うし

東京都千代田区永田町2丁目10番5号

TEL. 03-3502-2205

FAX. 03-3502-8948

<http://www.hieakasaka.net/>



日枝神社
結婚式場

ひ え
日枝 あかさか